ISSN 0388－5569
VOL. 7 No. 2
（通巻 20 号）
1986. 6

Library News

山口大学附属図書館報

目次

読書雑感　早野延男 …… 1
《お知らせ》
『山口大学附属図書館所蔵
棲息堂文庫目録』を刊行 …… 2
《資料紹介》
－ギリシヤ・ラテン教父全集－ …… 3
昭和61年度附属図書館関係各種委員会
委員名簿 …… 3
寄贈図書 …… 4
人事異動 …… 4
日　誌 …… 5
昭和60年度図書館統計表 …… 6

読　書　雑　感

早　野　延　男

私の場合、「読書」と呼べるものとして、印象的な出来事は、中学３年位の時（昭和16年）であったと記憶する。その当時、石川県の金沢に住んでいたが、たまたま或る日、突然、街角で“ヒットラー・ユーゲント”（戦前のドイツのボーイスカウト）の行進に遭遇し、まことに鮮烈な印象を受けたのが契機となって、書店で例の“Mein Kampf”を見つけ、早速耽読したが、書中の到る所に“プロパギャンダ”と言う言葉が出てきて閉口したのを覚えている。それ以後は社会の情勢と私自身の過し方から落ち着いて書物に接することができないまま、戦後を迎えたことは思い返すとまことに残念に思われる。

学生時代は博多で過ごしたが、当時（昭和20年の前半）の大学の図書館（物理学教室の図書室）には外国語の書籍が幅を利かせており、和書はほとんどなく、専らノートに頼るしか能がなかった次第である。（筆者の不勉強でうまく思い出せないが、竹内端三先生や掛谷宗一先生の“関数論”、藤原松三郎先生の“代数学”？などはあった。）当時は出版界が急速に復興しつつあった時機と思われ、“物理数学”の講義用のテキストとして寺沢寛一先生の“自然科学者のめたの数学概論”を使うことができて好運であった。ただ書名が長すぎるので、学生間でよく“寺寛、テラカン”という略称を使っていたが、年輩の先生方からは顰蹙を買っていたのではないかと思われる。その他の講義関係では、固体論ではSeitzの“Modern Theory of Solid”を読むように努力することが勧められていたが、この本は量子力学的な考え方が背景となっており、簡単に取りつけるものではなかった。流体ではLambの“Hydro Dynamics”、弾性体ではLoveの“Theory of Elasticity”を読めば良いということになっていた。また電磁気学ではMaxwellの“Electro－Magnetism”の日本語訳をみつけ、日本語の有難さを痛感したりしていた。分光学に到ってはCondon & Shortlyの“Atomic Spectra”を先輩に紹介されたが、そのVolumeに圧倒されて敬遠するしかなかった。確か３年生の後半の時であったと思うがShockleyの“Electrons and Holes in Semi Conductors”が出版され、研究室の有志で輪読会が持たれたような記憶がある。この本はこれまでの本とは異なり図による説明の仕方がまことに斬新でGeの中に電子が泳ぎ出して行くようなイメージが浮かび、内容の理解はともかくとして読みたくなる印象を与える書物であった。

その当時の学生生活の状況を少し説明させて頂くと当時はTVも、スポーツ新聞も週刊誌もなく、また学生の身分ではラジオもなく（無い人が多かった）、もちろん車などというものはなく、まあ自転車はあったが、これも筆者がよく友と共同で利用していたのは万年タイヤという物凄いものがついており、万年空腹と相俟って、要するにきれいな空気と水と美しい緑の木々以外には何もない

というスッキリした状態であった。数少ない娯楽の中では読書はやはり良いものであった。

法文学部の横の公孫樹の木々に囲まれた中央図書館で時々数時間を過す習慣がついた。いくつかの書物に出会ったが、その中の２、３について述べてみる。Ｊ．シャルドンヌ「結婚（クレエル）」（佐藤朔訳）、レマルク「三人の仲間」（柳田泉訳）．藤原審爾「秋津温泉」の三冊が今でも印象に残っており、当時は何度も繰り返して読んでいた。どういう理由でシャルドンヌの書を手にしたかはわからないが、多分"結婚"という文字に関心があったからだと思われる。２番目と３番目の書物との出会いについてもはっきりした選択の動機というものは思い出せないので、今も"出会"というものはそういったものと考えている。いずれの書物も男女の愛と生と死が描かれているが、第１のものは穏やかな愛についてであり、第２、第３のものは激しく燃え上がる愛とその挫折についてのものであり、殆んど毎日読む習慣がついていたので或る時期には、書物を読みに図書館に行くというより、作中の人物に会いに行くと言った方が適切で、頁を開き、読み進むにつれて丁度TVを見ているような感じとなり、全く時を忘れてしまう状態になれるのが楽しかった。

本を読む職業に従事するようになってからは、必要に迫られて毎日読んでいる訳で、あまり取り立てて言うこともないが自分が必要とする知識を如何に旨く取り組むか、そのためには書物を自分なりに飼い慣らす（自家薬籠中のものとする）と言っては妥当ではないかもしれないが、知識を本から取り込む方法について関心を持つようになってきたと思う。例えば、抽象的な内容の本はできるだけ具体例に結びつけるような読み方をし、具体的な本はできるだけ抽象的に読むといったことを心がけるようになってきた。

最近読んだ本で印象に残ったのは、ニコラス・Ｐ・ネグロポンテ著「ヒューマン・インターフェイス」（日本経済新聞社）で、今は人間の方がキーボードを通してコンピューターに近づく努力をしているが、逆に、コンピューターの方がもう少し人間に接近する努力をするべきだという考え方で書かれており、発想の逆転がおもしろく興味深く読むことができた。

ＴＶ、ウオークマン、レーザー・ディスクなど文字によらざる情報伝達手段が氾濫する中で、昔からの読書スタイルが今後どのように周囲と調和しながら変革を遂げてゆくのか大変興味を持たれる所である。

（工学部分館長）

《お知らせ》

『山口大学附属図書館所蔵　棲息堂文庫目録』を刊行
（161頁　Ｂ５版　昭和61年３月刊）

徳山藩主毛利元次候（1667－1719）は、和漢の学、風雅の道を好み、居館の後に燕居読書の処として棲息堂を建て、３万冊余の和漢秘書を所蔵した。

その一部約8,200冊が本文庫に収納され、それ以外は宮内省図書寮に収納されています。このたび、寄贈を受けてほぼ20年ぶりに当文庫目録を刊行し、帙等を整備することができましたのも各方面の援助及び協力によって実現したものです。

資料的評価については、下記のとおり紹介されていますので省略するとして、出版事情という面からみても、昌平黌の三大儒者の一人柴野栗山著『雑字類編』などは、今日では想像を絶するような資金難の下で出版されたこと。また、筆禍の例として林子平著『海国兵談』を挙げてみても、寛政４年幕府は子平を禁錮に処し、板木・製本を没収した際に、同著の序子平伝にうると「於是子平作六無歌。自號六無斎主人。」とあり、親もなし、妻もなし、子なし、板木なし、金もなけれど、死にたくもなしと悲愴な叫びをあげ、六無斎と号した所以もうかがい知ることができるように当時の事情にも思いを馳せることもできるのです。

記

西　村　　久：棲息堂文庫目録　序文（昭61年）
上　村　幸　次：徳山市立図書館双書　第12集（昭40年）
岩　城　秀　夫：山口大学学報　第383号（昭61年）
浦　野　都志子：図書館の窓（東大図書館報）　VOl.24, No.2　（昭60年）

《資料紹介》

Patrologiae Cursus Completus
－ギリシヤ・ラテン教父全集－
（昭和60年度購入大型資料）

教皇クレメント１世紀から15世紀のフィレンツェ宗教会議頃までのギリシャ教父著作及びテルトゥリアヌスから13世紀の教皇インチレティウスⅢ世期までのラテン教父著作で、Patrologia latina及びそのSupplentumとPatrologia graeco－latinaの２部で構成されており、教父著作の集大成です。本全集は1857年～1868年パリで刊行されたものを、1957年以降ベルギーのブレスポルス社から復刻版として刊行されており、現在、入手困難なため欠本も多々あるが、その版の268冊です。

昭和61年度附属図書館関係各種委員会委員名簿

◇　運営委員会

◎西村　　久（館長）　竹尾　和典（医学部分館長）　早野　延男（工学部分館長）
添田建治郎（人文学部）　阿部　泰記（人文学部）　堂面　春雄（教育学部）
重岡　　徹（教育学部）　下和田　功（経済学部）　菰田　文男（経済学部）
永井　克彦（理学部）　内藤　博夫（理学部）　黄　　基雄（医学部）
日高　照晃（工学部）　藤田　則之（農学部）　田中　幹郎（農学部）
渡辺　信生（教養部）　中野　良弘（教養部）　篠崎　文彦（附属病院）
緒方　幡典（医療技術短期大学部）　池谷　元伺（工業短期大学部）

◇　本館図書委員会

◎西村　　久（館長）　遠藤　　徹（人文学部）　添田建治郎（人文学部）
重岡　　徹（教育学部）　熊谷　信順（教育学部）　下和田　功（経済学部）
菰田　文男（経済学部）　阿部　憲孝（理学部）　原　純一郎（理学部）
藤田　則之（農学部）　田中　幹郎（農学部）　小杉　健三（教養部）
谷口　　仁（教養部）　上島順二郎（事務部長）

◇　医学部分館図書委員会

◎竹尾　和典（分館長）　黄　　基雄（基礎）　篠崎　文彦（臨床）
芳原　達也（基礎・助講）　小田　裕胤（臨床・助講）　緒方　幡典（医療短大）

◇　工学部分館図書委員会

◎早野　延男（分館長）　加藤　泰生（機械）　溝田　忠人（資源）
野口三千彦（工化）　日野　伸一（土木）　羽野　光夫（電気）
石田　　武（生彦）　薄井　洋基（化工）　宮田　直之（電子）
古川　浩平（建設）　栗山　　憲（共通）　三好　正毅（工短）
山本　哲朗（工短）

寄贈図書

（本　館）

村上勝三（人文学部助教授）

哲学理論の歴史　岡嶋一則編　　公論社　昭和60年

宜名真　勇（経済学部助教授）

日本経済の数量分析　置塩信雄、野澤正徳編　　大月書店　1983

コンピュータ統計　T. A。ライアン等著　廣松毅訳　　啓明社　1982

経済・商系基礎統計　稲葉三男等著　　共立出版　1983

統計学入門　稲葉三男著　　共立出版　1981

統計学入門　杉山高一著　　絢文社　1984

商経系のための統計学通論　井手三郎、笹井昭孝共著　　学術図書　1980

マクロ経済学の基礎　手嶋正、林敏彦編　　有斐閣　1982

涙なしの統計学　D. ロウントリー著　加納悟訳　　啓明社　1981

Microeconomics. Mansfield, Edwin W. W. Norton, 1982

Linear Algebra. Hadley, G. Addison－Wesley, c1961

岩城秀夫（人文学部教授）

コンピュータ・ベースの図書館システム入門　L. A。テッド著　吉田貞夫、田口瑛子共訳　法律文化社　1979

図書館ハンドブック　第4版　日本図書館協会　1978

中国古典劇の研究　岩城秀夫著　　創文社　1986　（創文社東洋学叢書）

門倉正美（教養部助教授）

大転換の時代－人間の背丈にあった生活世界の探究 － 歴史を堀り起こす会（山口大学教養部門倉研究室）

熊谷寛次（教養部教授）

生物の心とからだ　ガイ・マーチー著　吉松広延他訳　　白揚社　1986

鈴木義則（農学部教授）

農業環境調節工学　矢吹萬壽他共著　　朝倉書店　1985

小野忠熙（名誉教授）

日本古地理学研究　小野忠熙著　　大明堂　昭和61年

（工学部分館）

大原資生（工学部教授）

最新耐震工学　大原資生著　改訂版　　森北出版　1984　（最新土木工学シリーズ　12）

人事異動

〔採　用〕（61.4.1）

阿　部　恵美子　　整理課整理係

寄　恵　由美子　　医学部分館閲覧係

林　　道　子　　工学部分館閲覧係

〔昇　任〕（61.4.1）

恩　知　陽　子　　整理課整理係長（整理課整理係から）

〔配置換〕（61.4.1）

澤田　健　（整理課長）　広島大学附属図書館整理課長へ
加藤宗晴　整理課長（宮崎医科大学図書課長から）
伊藤　巌　閲覧課閲覧係長（工学部分館整理係長から）
佐古和夫　閲覧課参考係長（整理課整理係長から）
吉野君子　医学部分館閲覧係（工学部分館整理係から）
山本弥生　工学部分館整理係長（閲覧課閲覧係長から）

〔転　任〕（61.4.1）

三好静男　工学部分館整理係（大島商船高等専門学校庶務課図書係から）

〔退　職〕（61.3.31）

蘓永秀夫　（閲覧課参考係長）
江口蔦子　（医学部分館整理係）
木村美智子　（医学部分館閲覧係）
小原孝司　（工学部分館閲覧係）

日　誌

2月17日（月）　第46回附属図書館運営委員会
2月17日（月）　第17回本館図書委員会
2月21日（金）　工学部分館図書委員会
4月17日（木）～18日（金）　第34回中国四国地区大学図書館協議会総会（於：東京医科歯科大学）
4月30日（水）　医学部分館図書委員会
5月 6日（火）　工学部分館図書委員会
5月15日（木）～16日（金）　第57回日本医学図書館協会総会（於：宇部山口大学医学部）
5月21日（水）　国立大学附属図書館事務部課長会議（於：東京医科歯科大学）

昭和60年度図書館統計表

Ⅰ　蔵　書　数（昭和61年3月31日現在）

区　　分	図　書（冊数）			雑　誌（種類数）		
	和	洋	計	和	洋	計
本　　館	629,746	237,058	866,804	7,218	2,911	10,129
医学部分館	64,939	56,476	121,415	1,120	1,038	2,158
工学部分館	67,015	38,885	105,900	1,144	828	1,972
計	761,700	332,419	1,094,119	9,482	4,777	14,259

Ⅱ　年間受入数

区　　分	図　書（冊数）			雑　誌（種類数）		
	和	洋	計	和	洋	計
人文学部	3,502	1,594	5,096	194	143	337
教育学部	3,724	1,158	4,882	371	264	635
経済学部	4,734	2,747	7,481	1,183	603	1,786
理学部	119	1,132	1,251	44	185	229
農学部	489	249	738	77	139	216
教養部	2,334	1,641	3,975	166	307	473
学生相談所					3	3
保健センター	23		23	5	2	7
埋蔵文化財資料館				6		6
本　　館	2,928	1,002	3,930	3,385	642	4,027
小　　計	17,853	9,523	27,376	5,431	2,288	7,719
医学部分館	2,255	2,330	4,585	758	720	1,478
工学部分館	2,370	1,468	3,838	751	709	1,460
合　　計	22,478	13,321	35,799	6,940	3,717	10,657

Ⅲ　利用統計

区分	開館日数(日)		入館者数(人)			館外帯出者数(人)			館外帯出冊数(冊)		
	時間内	時間外	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計
本館	290	194	201,236	33,323	234,559	22,406	6,275	28,681	40,919	11,814	52,733
	一日平均		694	172	—	77	32	—	141	61	—
医学部分館	295	254	33,686	22,264	55,950	14,318	10,128	24,446	28,364	18,209	46,573
	一日平均		114	88	—	49	40	—	96	72	—
工学部分館	287	200	65,157	14,665	79,822	7,264	2,919	10,183	12,833	4,674	17,507
	一日平均		227	73	—	25	15	—	45	23	—

Ⅳ　文献複写（件数）

区　　分		学内者			学外者	他大学等			合計
		私費	公費	小計	私費	私費	公費	小計	
電子式複写	本　　館	1,037	346	1,383	77	506	716	1,222	2,682
	医学部分館	4,000	8,729	12,729	2,100	1,160	1,240	2,400	17,229
	工学部分館	184	21,828	22,012	57	30	412	442	22,511
	合　　計	5,221	30,903	30,903	2,234	1,696	2,368	4,064	42,422
印画引伸	本　　館	0	3	3	0	0	0	0	3

編集・発行　山口大学附属図書館　〒753 山口市大字吉田　電話（0839）22－6111内線788